

花巻支部ニュース

発行所
岩手県看護協会
花巻支部
令和3年2月発行
第80号

支部長挨拶

花巻支部長 畑村 浩一
(社団医療法人 啓愛会 宝陽病院)



三寒四温の時節、岩手県看護協会花巻支部の会員の皆様におかれましては今までとは違う新年を迎えられたことと思います。日頃より支部活動にもご理解ご協力をいただきまして感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大に対する対応で大変な1年になりました。花巻支部もいろいろな計画をしておりましたが、研修会を一度だけ行いそのほかの活動はできない状態となりました。会員の皆様には大変申し訳なく思っております。

地域の各種会議も回数を減らしたり時間を縮小したりと工夫をして開催しております。会議への参加を通して看護の重要性をアピールできるよう努力してまいります。

今年度も計画通りに進むかどうか不透明な部分が大いと思われませんが、状況を見ながら進めてまいりたいと考えています。

コロナウイルスの感染対策で日常でも仕事でも肉体的・精神的にも大変な日々を送らなければならなくなっています。医療従事者としてコロナ対策現場でお仕事をされている全国の方々のご苦労を思うと心から応援するしかありません。看護協会としても最大限の支援・活動をされているとの事ですがより一層の援助を期待したいものです。

コロナウイルスの収束と本年が会員の皆様にとって良い一年となりますように祈念申し上げます。

看護を語る会に参加して

総合花巻病院 小瀬川 千代美

当院看護部の人材育成の一環として今年度より看護を語る会をおこなっています。今年度は7月と1月に開催しました。看護を語る会を行うことにより、経験の共有や看護の奥深さに気づく、初心に帰る、他者との知の交流ができるなどの効果があるようです。語る会での発表を聞いていると、自分と経験を照らし合わせることができ、初心に帰ることができました。発表しているみなさんは自分の言葉で語ってくれるので心が熱くなり感動します。

1月の語る会の後には看護部長より『ナラティブ・アプローチ』について講義をして頂きました。ナラティブとは物語と訳されるそうです。今まで経験してきた事や看護の知識を自分の言葉で語る事により自分の行ってきたことの振り返りができる、聞いた相手も知識を得ることができる。これを続けていくことで『知』の共有ができ、新人教育などには有効なアプローチ方法です。このアプローチ方法は新人教育だけではなくいろいろな状況で活用できると思います。忙しい日々ではありますが、実践した看護を振り返りながら意味付けし、意識して伝える努力が必要だと感じました。

コロナ禍での当院の取り組み

岩手県立東和病院 佐藤 美智江

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい収束がつかない中、模索しながら一つ一つ感染症予防対策や対応の構築をしているところです。先が見えずモチベーションが上がらない状況であっても、スタッフ一丸となり出来ることを頑張ろうという思いで取り組みを行っています。

① 地域包括ケアの取り組み

連携施設を訪問し福祉・介護も視点等から当院に対する意見や要望を伺い課題を抽出し、改善に向けて検討策を各施設にフィードバックしました。又、他施設の多職種との事例カンファレンスを通し、介護施設との終末期・看取り・急変対応の連携のあり方について再考することが出来ました。今後も他施設との定期的な事例カンファレンスの開催を検討していくことにしています。又、訪問診療や看護を提供することで切れ目のない在宅療養支援を実践し、利用者は増加しています。

② ACPの推進

昨年に続き、11/30（人生会議）の日になみ外来の待合ホールにおいて、ACPの周知説明の場を設け啓蒙活動を行いました。又、ACP院内研修では、医師の参加を促しグループワークを行うことでACPIについての理解を深め合いました。

③ 看護学生の実習受け入れ準備

勤務環境活性化と人材育成の新たな取り組みとして、看護学生の臨地実習の場を提供するための整備を行っています。



編集後記

春の訪れが待ち遠しい今日この頃ですが、今年は例年より雪が深く、まだまだ雪かきをする機会もありげんなりしてしまう毎日ですが、皆様体調に気をつけ乗りこえていきましょう。

なお、今回の支部ニュースはページを縮小しての発行になりました事、お詫び申し上げます。

【連絡先】 花巻支部長 畑村浩一
宝陽病院 TEL 0198-45-6500

岩手県花巻支部会員の動向（2020年1月31日現在）

会員数	保	助	看	准
376	11	3	347	15

【編集委員】 吉光由美 浅沼有香